

## 彼岸 2

9月の声を聞きましたが、まだまだ暑い日が続いております。この辺りは、なかなか雨も降らず畑の作物は日照りでだいぶやられています。かと思うと、雨が降り続いて土砂崩れや増水で命を奪われている地域もあります。天気は、人間の都合の良いように操れるわけではありませんから、本当に難渋します。

とは言っても、風はだいぶ涼しさを運んでくるようになりました。勿論昼間はかなり暑いと感じるのですが、夕方になってくると、吹く風に涼しさを感じます。暑い暑いとは言っても、季節は確実に秋に向かって居るんだなあ実感しております。

さて、あなたにとって秋と言えば何でしょう？食欲？読書？憂い？色々あるでしょうが、寺に住むものにとっては、やはり「彼岸」でしょうか。勿論「彼岸」は春・秋と二回ありますが、春の彼岸が「芽吹き時期」に向かっていくのに比べて、秋は「落葉の時期」に向かっていくという事もあるのかも知れませんが、何となくもの悲しさを呼び覚まします。

この彼岸という行事は、日本独特のものようですが、春・秋の彼岸のお中日には、太陽が真東から昇り真西に沈む事から、西方の極楽浄土に思いを馳せ、極楽に生まれようとする願いにより行われるようになったと言われております。その極楽に生まれたいという願いが、いつの間にか亡くなった祖先を供養する行事へと変化していったものようです。ですから、今「彼岸」を本来の意味で使われる事が、どれ位あるのかな？と思うと、心細い限りなのですが...

この「彼岸」という言葉の意味は、勿論読んで字の如し。「彼方の岸」と言う事ですが、これは「此岸」に対しての言葉になっております。「此岸」とは、勿論こちらの岸であって、今私の立っている場所という事になります。それに対して「彼岸」とは、悟りを開いた向こう岸という意味になります。決して「死後の世界」ではないんです。

私たちが、今まで当たり前のように思っていた事が、じつは当たり前じゃあ無かったと気づいていく世界。例えば、今までは二本の足でサッサと歩く事が

当たり前と思っていたけれど、足に怪我をしてしまったら、一步踏み出すのにも大変な状態になってしまった事ありませんか？数年前までは普通に出来た事が、気づいたら出来なくなっていた事ありませんか？

その時に、こんな怪我さえしなかったら普通に歩けるのにと苛つきますか？若い時には苦も無くできていたのにと愚痴りますか？

苛つくのではなく、愚痴るのでなく、今まで気づく事が出来なかったけれど、こうなって初めて当たり前だと思っていた事が当たり前でなく、じつは有り難い事であったのだなあ、と私に気づかされるものこそ、彼岸から私に届いた智慧ではないでしょうか。

「彼岸」とは悟りの世界だと書きました。「悟りの世界」には智慧が満ち満ちております。「智慧」とは真実を見抜く目と言い換えられるでしょう。そう考えると、「彼岸」には真実だけが存在している世界とも言えるのではないのでしょうか。

様々な欺瞞が満ちている私たちの住む「此岸」に対して、真実が満ちている世界が「彼岸」だと言えるでしょう。その「彼岸」に生まれる為に、彼岸の智慧に照らされて、様々な気づきを積み重ねているべきなのが、本来は今の私のすべき事なのでしょう。しかし現実には、生活に追われ刹那刹那のやりくりで精一杯というのが、今の私の姿なのではないのでしょうか。

だからこそせめて、この彼岸の時期こそ「彼岸の智慧に照らされた気づき」を積み上げられる時でもあるのではないのでしょうか。